

# 清水町人口ビジョン・総合戦略

**【令和4年度実施事業評価】**

# 1 まちの産業を確立し、安心して働けるようにする

## <基本的方向>

(1) 基幹産業である農畜産業と関連産業の成長による安定した雇用を創出するとともに、高付加価値型商品・サービスを開発する

## <具体的な施策>

施策 (事業内容)	重要業績評価 指標 (K P I)	R7年度 目標値	R3年度 実績	R4年9月末 現在の実績	R4年度 実績	目標達成に向 けた取組状況	中間評価		期末評価		今後の展開・改善点
							進捗	進捗状況説明	評価	評価理由	
<b>農業振興対策事業</b> 生産性向上、経営負担の軽減、耕畜連携・循環型農業の推進、輪作体系の維持、ブランド化推進に対して支援することにより、持続可能な農畜産業の振興を図る。(子牛育成事業、自給飼料増産対策事業、畑作総合振興事業など) (担当：農林課)	生乳生産量	15万 t (年間生産量)	14.8万 t (1~12月)	7.5万 t	14.8万 t (1~12月)	順調に拡大している状況。ただ、今後の需要に不安。	順調	乳製品の消費低迷により、現在、生産調整が図られており、生産量は現状維持の状態である。	順調	昨年同様、乳製品の消費低迷により、R4年度も生乳調整が行われている。	生産能力は向上しているが、消費が低迷しており、消費拡大緊急対策として、国が訪日外国人観光客や子ども食堂をターゲットに牛乳を安価に提供する活動等を支援。
	デントコーン耕畜連携作付助成面積	300.0ha (年間助成面積)	324.5ha	-		輸入飼料高騰に対し、継続的な支援は必要。		実績値は年度末。耕畜連携については、順調に進捗している。		R4より、需要側から品質の良いデントコーンを求める傾向にあるため、事業内	
	自給飼料品質向上対策	150.0ha	-	-	144.70ha	デントコーンの増収と品質向上を図る。	順調	実績値は年度末。初年度ということで事業周知に力を入れている。	順調	初年度としては、取組の理解を得ている。	需要と供給のバランスを見極め、更にデントコーンの品質向上に努める。
	堆肥ペレットの販売数	300,000袋 (年間販売数)	285,936袋	-	260,864袋	補助金としてJA十勝清水町に対し、各農家が購入する堆肥ペレットの購入費用の助成をしている。	順調	実績値は年度末。化学肥料の価格高騰もあり、今後も少しずつ販売数の増加が見込まれる。	廃止	R4は価格高騰で節約の影響もあり、販売数減ったが、肥料価格高騰により国内肥料への関心が高まっており今後販売増が見込まれる。	町の補助期間が決まっており、その期間が令和4年度で終了。今後もJA十勝清水町において販売は継続される。
<b>地域ブランド推進事業</b> JA、商工会、観光協会、JA蔬菜振興会にんにく部会と町で組織した実行委員会において、十勝清水にんにくの普及・促進を図る。 (担当：農林課)	にんにくの作付面積	45ha (年間作付面積)	17ha	21ha	21.5ha	補助金としてJA十勝清水町に対し、にんにく種子の生産費用の助成をしている。	順調	JA十勝清水町においても施設整備や機械導入が進んでおり、今後も作付面積の増加が見込まれる。	順調	JA十勝清水町においても施設整備や機械導入が進んでおり、今後も作付面積の増加が見込まれる。	町だけでなく、JA十勝清水町においても独自で作付け農家への支援を行っており、今後も作付面積の増加が見込まれる。
	にんにくの販売量	100 t (年間販売量)	57t	18t	40t	コロナでにんにく肉まつりは中止となったが、代替事業のテイクアウトフェアへの人的協力をしている。	遅延	コロナの影響で消費低迷やイベントの縮小などにより販売促進がなかなか出ていない。	外的要因の停滞中	コロナの影響で消費低迷やイベントの縮小などにより販売促進がなかなか出来なかった。	コロナの影響で消費低迷やイベントの縮小などにより販売促進がなかなか出来なかったが、今後コロナの終息に向け、イベントや販促に取り組んでいく。

<b>企業立地促進事業</b> 企業の振興と立地を促進し、経済の発展と雇用機会の拡大を図るため、町内に工場や小規模な工房等を新設・増設し、町民を雇用した企業に対して支援する。 (担当：商工観光課) <div style="text-align: right; background-color: #0056b3; color: white; padding: 2px;">産業振興</div>	助成制度による新設・増設件数	3件 (5年間累計)	0件	0件	R4実績 0件 累計 0件	町内に企業立地を検討している企業の相談業務を随時実施。	遅延	大型投資による企業立地の減少の他、雇用の確保が困難な状況にある。	外的要因のため停滞中	清水町に限らず、社会動向として大型投資による企業立地の減少の他、雇用の確保が困難な状況にある。	小規模な起業については、令和4年度より起業等スタートアップ支援事業補助金により対応。
	助成制度による町民新規雇用数	14人 (5年間累計)	0人	0人	R4実績 0人 累計 0人	上記のとおり	遅延		外的要因のため停滞中		
<b>バイオマス利活用促進事業</b> 家畜ふん尿の有効利用により、資源循環と有機農業を推進し、酪農家のコスト削減等による生産性の向上とともに、環境配慮・安心安全な農業の実施による町のイメージアップを図る。 (担当：農林課) <div style="text-align: right; background-color: #0056b3; color: white; padding: 2px;">産業振興</div>	農業系バイオマスの製造又は供給する施設の処理対象戸数	13戸	11戸	11戸	11戸	清水町地域農業再生協議会にて、持続的に協議中。	順調	大規模酪農家に対して、今後とも協議を重ねていく	見直が必要	物価高騰によるコスト高、また、酪農情勢が厳しい状況にある。	目標年度に向け遅延気味ではあるが、関係機関と連携し、様々な計画を立案していく。
	バイオガスプラント普及率	40%	29%	29%	29%	清水町地域農業再生協議会にて、持続的に協議中。	順調				
<b>農村ホームステイ事業</b> 都市部の高校生等を対象とした農家民泊の受け入れを推進し、農作業体験や生産者との交流を通して、農業の大変さと大切さを実感してもらい、十勝清水の農産物に対して理解を深める。 (担当：農林課) <div style="text-align: right; background-color: #0056b3; color: white; padding: 2px;">産業振興</div>	農村ホームステイ受入登録戸数	25戸	20戸	0戸	0戸	清水町農村ホームステイ協議会を組織したなかで、都市部の高校生等の受入を行っている。	遅延	コロナにより、令和2年度～4年度は受入が中止となり、令和5年度に向けて検討中だが、以前と同様に実施できるかは不透明である。	外的要因のため停滞中	コロナにより、令和2年度～4年度は受入が中止となり、令和5年度に向けて日帰りでの体験受入を検討中。	すぐにコロナ以前のような事業の実施は厳しいが、徐々に活動を活発化させ事業を継続していく。
<b>食品加工・製造研修事業</b> 農産物加工品製造販売を目指す者が、製品の開発研究を行える機会を提供して、事業化の機運を醸成する。 (担当：農林課) <div style="text-align: right; background-color: #0056b3; color: white; padding: 2px;">産業振興</div>	加工品のブランド化数	5品 (年間品目数)	5品	0品	0品	公益財団法人とかち財団に参画しており、運営負担金の支出をしている。	遅延				

<b>食品試験・分析費用支援事業</b> 農産物の成分、栄養等に関わる試験分析を、研究機関に委託する経費を支援し、事業化を支援する。 (担当：農林課)  <div style="text-align: center; background-color: #0056b3; color: white; padding: 2px;">産業振興</div>	新商品開発研究 相談数	125件 (5年間累計)	16件	-	R4実績 21件  累計 37件	公益財団法人とかち財団に参画しており、運営負担金の支出をしている。	順調	実績値は年度末。相談件数や技術指導件数は年々増加しており、年間20件程度となっている。	順調	相談件数や技術指導件数は年々増加している。	相談件数や技術指導件数は年々増加しており、事業の周知等を図りながら、事業を継続していく。
<b>新規開店者・空き店舗活用開店者支援事業</b> 市街地の新規開店・空き店舗活用を支援する。 (担当：商工観光課)  <div style="text-align: center; background-color: #0056b3; color: white; padding: 2px;">定住促進</div>	空き店舗活用新規事業者数	1件 (年間件数)	2件			商工会からの情報提供、移住者の起業支援による相談を複数実施。	選択してください			R4より「清水町起業等スタートアップ支援事業補助金」創設	
<b>起業・雇用促進補助金交付事業</b> 新規起業及び事業拡大に伴う経費及び雇用助成を支援する。 (担当：商工観光課)  <div style="text-align: center; background-color: #0056b3; color: white; padding: 2px;">定住促進</div>	起業等による新規事業者数	1件 (年間件数)	1件			上記制度の対象とならないエリアの起業・雇用を支援。	選択してください			R4より「清水町起業等スタートアップ支援事業補助金」創設	
<b>起業等スタートアップ支援事業補助金交付事業</b> 事業者等新規起業に伴う経費及び雇用助成他、既存店舗全面改修に伴う経費を支援 (担当：商工観光課)  <div style="text-align: center; background-color: #0056b3; color: white; padding: 2px;">産業振興</div>	起業等による新規事業者数	5件 (年間件数)		2件	5件	商工会と連携し、起業相談等での制度周知の徹底。	順調	市街地限定開業要件の撤廃等、要件緩和により相談件数が増加している。	順調	支援要件の緩和、支援内容を強化したことにより、支援実績、相談件数共に増加した。	時代に即応した要件の見直しを適宜図り、清水町で起業しやすい環境を継続的に整える。

(2) 若者や女性、意欲のある者が起業しやすい環境づくりを進める

<具体的な施策>

施策 (事業内容)	重要業績評価 指標 (K P I)	R7年度 目標値	R3年度 実績	R4年9月末 現在の実績	R4年度 実績	目標達成に向 けた取組状況	中間評価		期末評価		今後の展開・改善点
							進捗	進捗状況説明	評価	評価理由	
<b>担い手対策事業</b> 担い手コーディネーターを 設置し、農業実習(研修)生 等の受入れ、新規就農者の 定着を図るため農業次世代 投資事業補助金申請事務や 各種支援、後継者の花嫁対 策などを実施する。 (担当：農林課)	農業実習生の受 入紹介数	20件 (年間紹介 数)	5件	0件	19件	担い手コー ディネーター を中心に受入 等に向けた相 談を受付けて いる。	遅延	コロナの影響も あり、相談等は 殆んどないもの の、若干だが 個々の農家で受 入が出来ている 実態があり、住 居の手配等の相 談にのっている。	順調	期末に向けコロ ナが落ち着きは じめ、農家で受 入が出来ている 実態があり、住 居の手配等の相 談にのっている。	コロナの終息に向け、 農家で受入が今後も増え てくると思われ、今後も 住居の手配等の相談など、 継続して取り組んでい く。
	新規就農者数	1名 (年間就農 者数)	0件	0件	0件	担い手コー ディネーター を中心に新規 就農等に向け た相談を受付 けている。	遅延	電話等での相談 はあるものの、 実際に新規就農 に向けた受入は ない状況であ る。	外的 要因 のため 停滞中	電話等での相談 はあるものの、 離農や経営移譲 などのタイミン グが合わず、実 際に新規就農に 向けた受入はな い状況である。	離農や経営移譲やタイ ミングなどいろいろな要件 がかみ合わないと感じ ているが、継続して取り組 んでいく。
	後継者への紹介 人数	10名 (年間紹介 人数)	3名	3名	6名	担い手コー ディネーター が仲介役とな り、電話や メール等で打 診のあった女 性を後継者へ 紹介している。	順調	コロナの影響も あり、直接会う ような紹介はま だ少ないが、書 類等での紹介も 並行して実施し ている。	外的 要因 のため 停滞中	コロナの影響も あり、直接会う ような紹介はま だ少ないが、書 類等での紹介も 並行して実施し ている。	コロナも終息に向かい、 問い合わせ件数も増加し てきていることから、今 後も目標達成に向け、継 続して取り組んでいく。
	女性との交流会 参加人数	100名 (年間参加 人数)	6名	1名	3名	担い手コー ディネーター が中心とな り、後継者に 対して交流会 等への参加を 呼びかけてい る。	遅延	コロナの影響に より交流会の実 施が殆んどない 状況でしたが、 11月に少人数 での開催を検 討中。	順調	コロナの影響も あったが、11月 に少人数での交 流会を開催でき た。清水町から は2名の参加。	コロナ禍で交流会中止や 参加辞退があったが、コ ロナ終息に向かいイベン トも参加者も増えてくる と思われることから、今 後も目標達成に向け、継 続して取り組んでいく。

産業振興

	農業次世代人材投資事業補助金支給者数	6人 (年間支給者数)	5人	5人	2人	対象となっている新規就農者へ補助金申請事務及び補助金の支給をしている。	遅延	補助金の支給はこれからとなっているが、新規就農者が少ないので、対象者が減ってきている。	順調	補助金支給者数が減った要因は対象者の所得が向上したことによるもので、営農が順調であることが要因である。	補助金支給対象者の営農が順調であるため、今後も支援していく。	
	<b>酪農人材確保対策事業</b> 酪農家の飼養規模拡大や高齢化、労働力不足の顕在化に伴い、ヘルパー制度の重要性は増しているため、ヘルパー職員の確保と人材育成の強化を図る。(担当：農林課)	十勝清水町酪農ヘルパー有限責任事業組合における酪農ヘルパー職員数	15人	10人	10人	9人	農業人フェアへの参加や、地域おこし協力隊の募集を行っている。	遅延	コロナの影響により東京や大阪で開催される農業人フェアへは参加できず、またインターンシップ受入れも難しい状況である。	見直が必要	地域おこし協力隊が昨年10月より1名採用しているが、新採用職員は厳しい状況にある。	令和5年度より、農協と連携し農業人フェア等へ積極的に参加し、職員数の確保に努める。
	<b>新規開店者・空き店舗活用開店者支援事業(再掲)</b> (担当：商工観光課)										R4より「清水町起業等スタートアップ支援事業補助金」創設	
	<b>起業・雇用促進補助金交付事業(再掲)</b> (担当：商工観光課)										R4より「清水町起業等スタートアップ支援事業補助金」創設	
	<b>起業等スタートアップ支援事業補助金交付事業</b> 事業者等新規起業に伴う経費及び雇用助成他、既存店舗全面改修に伴う経費を支援 (担当：商工観光課)											
再掲項目につき記載を省略します。												

(3) 町民や事業者の需要を取り込み、町内の経済循環性を高める仕組みを作る

<具体的な施策>

施策 (事業内容)	重要業績評価 指標 (KPI)	R7年度 目標値	R3年度 実績	R4年9月末 現在の実績	R4年度 実績	目標達成に向け た取組状況	中間評価		期末評価		今後の展開・改善点
							進捗	進捗状況説明	評価	評価理由	
<b>住宅リフォーム・太陽光発電システム導入奨励事業</b> 町内の建設業が施工する住宅リフォーム等を行うものに対する支援を、町内で流通する商品券で交付して、町民の住環境等の整備を促進し、町内経済循環を図る。 (担当：商工観光課)	該当事業経費	事業費 2億5,000万円 (5年間累計)	43件 8千5百万円	16件 1,547千円	31件 R4事業費 6千4百万円 (累計 1億4千9百万円)	建設業者への制度の周知徹底、利用者への広報活動を実施	順調	建設事業者等による制度周知が定着し、奨励事業の利用促進が図られている。	順調	建設事業者等による制度周知が定着し、奨励事業の利用促進が図られている。	新年度より、従来のリフォームに加え、別枠で脱炭素設備導入工事費の助成を開始し、ゼロカーボンとかち清水宣言の更なる取り組みを進める。
<b>地域活性化生活応援商品券事業</b> プレミアム商品券を販売し、町民の消費喚起による生活応援と町内での消費購買により地域内の経済活性化を図る。 (担当：商工観光課)	商品券販売組数	9,800組 (年間販売組数)	6月分 13,000組 10月分 13,000組 2月分 7,000組 計 33,000組	6月分 17,000組	6月分 16,686組 10月分 18,398組 2月分 13,000組 計 48,084組	購入希望者の希望組数通りの販売を実施	順調	当初13,000組販売予定を上回る17,000組を販売し、町内消費喚起を促した。	順調	初めて、発行組数に制限を設けず販売したところ、多くの町民が利用し、町内の消費喚起につながった。	令和4年度は、コロナ対策交付金を活用して、多くの予算をかけて実施したが、今後は、財源にも限りがあるため、事業のソフトランディングを模索する必要がある。
<b>マイホーム取得奨励金交付事業</b> 住宅の取得により、定住人口の増加を図るとともに、町内業者の活用に伴う経済循環を促進させる。	移住者 賃貸住宅入居者  子育て世帯	4件 4件  17件  計25件 (年間交付件数)	7件 9件  17件  計33件	R3契約分 子育て9件 移住者2件 賃貸住宅入居者4件 R4契約分 一般世帯2件	R3契約分 子育て11件 移住者5件 賃貸住宅入居者5件 R4契約分 子育て8件 一般世帯4件	町内に住宅を取得した全ての者を対象とする旨、制度要件を緩和した。	順調	制度要件を緩和し、分かり易い制度となり、事業の利用促進が図られた。	順調	要件緩和、制度周知等に努めた結果、目標を上回る住宅が建設された。	社会情勢、財政状況等を見極めながら、引き続き、制度周知に努め、人口対策に努める。
<b>定住促進賃貸住宅建設補助金交付事業</b> 世帯向け賃貸住宅の建設を促し、世帯の転入増加へつなげていく。 (担当：商工観光課)	定住促進賃貸住宅建設補助金交付事業	8戸 (年間建設戸数)	0戸	0戸	0戸	世帯向け賃貸住宅の建設を建設業者へ打診した。	遅延	単身者用の賃貸住宅の建設はあるが、世帯用は無い状況にある。	外的要因のため停滞中	建築資材の高騰等により、賃貸住宅建設の機運が盛り上がらなかった。	世帯向けの賃貸住宅の問い合わせは多いので、制度の見直しも含め継続的に町内事業者と協議していく。

	6戸 (年間改修戸数)	9戸	4戸	7戸	建設事業者に、新築同様、古い住宅を改修し賃貸住宅としての活用を促した。	順調	新規での世帯用賃貸住宅の建設は無いが、古い住宅を改修しての賃貸が促進された。	順調	古い空き家をリノベーションし、世帯用に賃貸することが促進された。	民間事業者では、町内空き家情報を把握するには限界があるので、行政との連携が必要。新年度より情報共有を強化する。
	6世帯 (年間転入世帯数)	5世帯								R3年度末廃止



## (4) 正規雇用につながる取り組みを進める

## &lt;具体的な施策&gt;

施策 (事業内容)	重要業績評価 指標 (K P I)	R7年度 目標値	R3年度 実績	R4年9月末 現在の実績	R4年度 実績	目標達成に向 けた取組状況	中間評価		期末評価		今後の展開・改善点
							進捗	進捗状況説明	評価	評価理由	
<b>業務資格取得支援事業</b> 事業所が従業員及び内定者に、業務に必要な資格を取得させるために必要な研修、資格取得受験に対して支援を図る。(担当：商工観光課) <div style="text-align: right; margin-top: 5px;">定住促進</div>	資格取得者	2人 (年間取得者)	3人	4人	5人	商工会等と連携して定期的に制度周知を実施。	順調	制度周知が定着し、事業の利用促進が図られている。	順調	制度周知が定着し、事業の利用促進が図られている。	事業者と継続的に協議し、時代に即応した資格の取得等に対応し、従業員定着を図っていく。
<b>高校振興事業</b> 清水高校生が町内企業に就職しやすい環境を整え、町内企業へ就職する機運を高める。(担当：学校教育課) <div style="text-align: right; margin-top: 5px;">定住促進</div>	町内企業への就職率	25% (年間就職率)	29%	※目標値の性質上、年度末まで実績を把握できない。	21%	清水高校振興会を通じて、学校への要請等を実施している。	順調	令和3年度(令和4年3月末)の実績は、28.89%(13名/45名)であった。	見直が必要	令和4年度末の卒業生就職希望生徒の21%(6名/29名)であった。	町内企業の魅力を高め、知ってもらうことが必要。庁内での協議が必要。
<b>清水町奨学金貸付事業</b> 奨学金償還免除規程を拡充し、人材育成と町内雇用の改善、町内定住者への支援を図る。(担当：学校教育課) <div style="text-align: right; margin-top: 5px;">定住促進</div>	町内就職者	1人 (年間就職者)	3人	※目標値の性質上、年度末まで実績を把握できない。	4名	奨学金制度の周知においては、特に償還免除規程についてのPRを行い、奨学金利用者の増を図っている。	順調	令和3年度から償還対象となった5名のうち、3名が町内企業へ就職した。	順調	令和4年度末において4名の償還猶予者が町内に就職している。	償還免除についての周知を図り安定した庁内での雇用を促進したい。
<b>就業奨学生支援事業</b> 新規採用した従業員が日本学生支援機構奨学金や町奨学金を返還している場合に、事業所を通じてその一部の支援を行う。(担当：商工観光課) <div style="text-align: right; margin-top: 5px;">定住促進</div>	町内就職者	3人 (年間就職者)	1人	1人	0人	企業の担い手不足解消のための一手段として採用募集の際に周知している。	順調	町内求人情報取得の際に制度周知を行うことで、利用促進が図られた。	外的要因のため停滞中	町内求人情報取得の際に制度周知を行ったが利用がなかった。	町内事業者の雇用環境を整えるため、継続的に制度周知に努める。

## 2 まちにひとの流れをつくる

### <基本的方向>

(1) 地域資源を発掘・活用し、町民全体で情報共有して町内外に発信することで、市街地に人の流れをつくり、交流人口の拡大を図る

### <具体的な施策>

施策 (事業内容)	重要業績評価 指標 (K P I)	R7年度 目標値	R3年度 実績	R4年9月末 現在の実績	R4年度 実績	目標達成に向 けた取組状況	中間評価		期末評価		今後の展開・改善点
							進捗	進捗状況説明	評価	評価理由	
<b>観光情報発信拠点強化事業</b> 町内観光事業者と連携し、 観光情報・物産情報の発信 の充実や、提供を行う拠 点を整備することなどによ り、来町者の町内回遊を 図る。(観光パンフレット、 ホームページ等の充実情報 発信拠点強化など) (担当：商工観光課)	観光協会ホーム ページアクセス 数	26,400人 (年間アク セス数)	37,900人	30,573人	57,235人	季節にあった 最新の情報発 信を実施。	順調	ホームページ他 SNSを利用し て、リアルタ イムの情報を 発信した。	順調	ホームページの リニューアルに より、情報更 新の頻度をあ げるとともに 情報発信に 努めた。	不定期だった情報 発信をできるので 恒常化し、前年 度よりも新鮮な 情報の伝達に 努める。
	十勝清水にんに く肉まつり来場 者数  (農林課)	6,000人 (年間来場 者数)	R3年度に おいては、 新型コ ロナ拡 大により 中止	中止	令和4年度 はコ ロナの 影響に より 内容 を更 変し て 実 施。	令和2年度は コ ロナの 影 響に よ り 内 容 を 更 変 し て 実 施。	達成 困難	中止	外的 要 因 の た め 停 滞 中	大型イベントは 中 止 に な っ た が、 町 内 飲 食 店 に よ り メ ニ ュ ー の 提 供 や キ ッ チ ン カ ー に よ り イ ベ ン ト を 開 催 し た。	今 後 も 関 係 機 関 と 協 議 し な が ら、 開 催 方 法 等 検 討 し、 イ ベ ン ト の 継 続 を し て い き た い。
	十勝清水肉・井 まつり来場者数	13,000人 (年間来場 者数)	中止	中止	中止	中止	達成 困難	中止	外的 要 因 の た め 停 滞 中	中止	他 の 食 イ ベ ン ト と の 共 同 開 催 等、 効 果 的 な 手 法 を 検 討 す る。
	清水公園入込客数	8,474人 (年間入込 客数)	10,093人	8,642人	11,591人	キャンプ事業 の開催を行っ た。	順調	キャンプ事業の 開催に合わせて、 清水公園の 利用促進チラシ の配布を実施し た。	順調	ファミリーキャ ンプ、ドッグ フォト撮影会 など、新たな 公園利用者の 発掘に努めた。	体育館建設の 延期にあわせ 、跡地利用活 用等大規模 改修は延期 となったが、 今後も、利 用促進に 努める。
<b>まちの魅力発見事業</b> 町民自身がまち の魅力を再 発見、理解し 発信するた めの事業を 実施する。 (担当：商工 観光課)	産直市場への 出店店舗数	50店舗 (年間参加 延べ店舗 数)	56店舗	54店舗	54店舗	新規出店者 を募り事業 の魅力向上 を図った。	順調	定期的に開催 することで、 リピーター が増え、事 業定着が 図られた。	見直 しが 必 要	定期的に開催 することで、 リピーター が増え、事 業定着が 図られた。	観光協会が 主体となる 事業は終了。 今後は、事 業者が自主 的に販売す る環境につ いて、可能 な限り支 援する

(2) PR活動や交流人口の拡大の取組みと連携しつつ、受入体制を整備し、大都市圏などからUIJターンを増加させる

<具体的な施策>

施策 (事業内容)	重要業績評価 指標 (KPI)	R7年度 目標値	R3年度 実績	R4年9月末 現在の実績	R4年度 実績	目標達成に向け た取組状況	中間評価		期末評価		今後の展開・改善点
							進捗	進捗状況説明	評価	評価理由	
<b>移住交流促進事業</b> 本町へ移住を希望する方の相談に応じる「移住相談ワンストップ窓口」の設置と、本町に多様な人材の移住を実現するため、都市圏の就職フェア・移住フェアに積極的に参加するなど、情報発信を通して、移住人口、交流人口の増加。移住体験用住宅による体験移住受入れも実施する。 (担当：商工観光課)	移住者数 (相談や各種施策を利用して移住した者)	30人 (年間移住者)	43人	8世帯19人	22世帯59人	HP広告掲載や以前に相談のあった人への連絡。	順調	移住体験住宅の活用等を通じて、移住促進が図られた。	順調	移住体験住宅の活用等を通じて、移住促進が図られた。	清水町の移住支援制度を引き続き丁寧に周知し、相談業務に力をいれる。
	同相談件数	108件 (年間相談件数)	20件	20件	37件	HP広告掲載や以前に相談のあった人への連絡。	順調	本町の移住者協議会と連携して、ニーズに合った相談対応ができています。	順調	協議会の設立により、住宅、仕事、暮らしなどきめ細やかな相談にのれた。	移住者とのネットワークを強化し、移住者目線で相談にのれる体制を整える。
	移住体験住宅利用件数	12件 (年間利用件数)	清水地区 2件4人 御影地区 7件19人  計 9件23人	清水地区 20人 御影地区 11件19人	清水地区 26件44人 御影地区 20件37人	HP広告掲載や以前に相談のあった人への連絡	順調	民泊サイトへの掲載や各種メディアでの宣伝により利用促進が図られている。	順調	民泊サイトの掲載、各種メディアへの露出により、体験利用が格段に増えた。	移住体験住宅の戸数を増やし、ペット可能な住宅を整備するなど、時代に即応した、体験住宅を引き続き整備する。
	同利用日数	300日 (同利用日数)	清水地区 44日 御影地区 194日 計238日	清水地区 100日 御影地区 161日 計261日	清水地区 223日 御影地区 272日 計495日	HP広告掲載や以前に相談のあった人への連絡。	順調	コロナの感染状況の収まりもあり、利用日数も伸びる傾向にある。	順調	短期から中長期まで、目的にあわせて利用日数が増加している。	子育て世帯をターゲットに保育園留学を実施し、ワーケーション等滞在時間の長い体験を促進する。
<b>地域おこし協力隊定住支援事業</b> 国の制度を活用することによって、地域おこし協力隊の職や定住に掛かる支援を行う。 (担当：企画課)	地域おこし協力隊員の定住	3人 (5年間累計)	0人	0人	R4実績 0人  累計 0人	現在5人の協力隊を採用している。また1人の協力隊を募集している。	順調	今年度新たに酪農支援協力員1人を任用した。地域とのつながりを支援し、退任後の定着を図っていきたい。	外的要因のため停滞中	R5年2月に1人が町外へ就職のため退職。R4年度末で4人の協力隊を任用しており、R5年度も継続して雇用。現在2名の協力隊の募集をしている。	地域おこし協力隊として充実した活動及び地域とのつながりを支援し、退任後の定着に向けた支援を進める。また、更なる地域おこし協力隊の活用を検討する。

就業奨学生支援事業（再掲） （担当：商工観光課）		再掲項目につき記載を省略します。										
定住促進												
<b>十勝地域と東京台東区・墨田区連携事業</b> 十勝地域と東京台東区・墨田区の「人」「企業等」の持続的な交流や関係人口創出を目指すため、十勝の広大なフィールドや農産物を活用し、江戸の食文化と融合した新商品の開発や食育や健康推進事業等を展開する。（担当：企画課）	両地域の企業が連携して開発したプログラムや商品件数	2件 （5年間累計）	0件	0件（成果は年度末）	R4実績 1件  累計 1件	十勝地域の広域連携事業として、負担金を支出している。	順調	物産販売やエゾシカ肉のメニュー開発や皮製品の特産品づくり、モニタリングツアーの実施等、順調に事業が進んでいる。	外的要因のため停滞中	コロナ禍の影響により、事業化テストなどの実施が遅れ、商品化に至らなかったが、民間事業者同士の取引が行われつつある。	本事業についてはR2年度から国の補助事業を活用し、十勝町村会を中心に18町村で実施。R4年度で事業終了となる。今後は十勝西ブロックにおいて、台東区・墨田区との継続的な交流につなげていく。	
	定住促進	個人参画者に調査し継続参加に意欲ある人数	100人 （5年間累計）	113人	0人（数値は年度末）	R4実績 165人  累計 278人	十勝地域の広域連携事業として、負担金を支出している。	順調	同上	参加者アンケートにおいて連携事業に継続して参加したいと回答した人数が165人に達し、十勝地域に関心や興味を持たすことができた。	本事業についてはR2年度から国の補助事業を活用し、十勝町村会を中心に18町村で実施。R4年度で事業終了となる。今後は十勝西ブロックにおいて、台東区・墨田区との継続的な交流につなげていく。	

(3) 起業者や有資格者の若い世代を引き込むような仕掛けづくりを進める

<具体的な施策>

施策 (事業内容)	重要業績評価 指標 (K P I)	R7年度 目標値	R3年度 実績	R4年9月末 現在の実績	R4年度 実績	目標達成に向 けた取組状況	中間評価		期末評価		今後の展開・改善点
							進捗	進捗状況説明	評価	評価理由	
<b>移住交流促進事業</b> (再掲) (担当：商工観光課)  <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">定住促進</div>											
再掲項目につき記載を省略します。											
<b>清水町奨学金貸付事業</b> (再掲) (担当：学校教育課)  <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">定住促進</div>											
再掲項目につき記載を省略します。											
<b>U I J ターン新規起業支援事業</b> 北海道が行うマッチング支援事業又は企業支援事業と連携し、東京圏から移住して就業又は起業しようとする者に対して移住支援金を給付する。 (担当：商工観光課)  <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">定住促進</div>	移住者及び起業者	2人 (年間移住者及び起業者)	0人	0人	0人	道マッチング支援の企業登録数を募っている。	遅延	町内企業の登録が少なく、利用がされない状況である。	見直が必要	国の制度に合致する移住者がいなかった。	道のマッチング支援に登録された企業に勤めることが条件の移住支援であるため、希望する企業が登録されていないと活用されない。町内企業に引き続き制度周知をしていく。
<b>起業・雇用促進補助金交付事業</b> (再掲) (担当：商工観光課)										R4より「清水町起業等スタートアップ支援事業補助金」創設	
<b>起業等スタートアップ支援事業補助金交付事業</b> 事業者等新規起業に伴う経費及び雇用助成他、既存店舗全面改修に伴う経費を支援 (担当：商工観光課)  <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">定住促進</div>											
再掲項目につき記載を省略します。											
<b>企業版ふるさと納税</b> 本町が実施する地方創生プロジェクトに対する民間資金の還流をはかるため企業版ふるさと納税の活用促進を図る。(担当：企画課)  <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">定住促進</div>	参画企業	1件 (年間寄付企業数)	0件	0件	2件	R2年度に地域再生計画の認定を受け、実施要項を制定している。	遅延	チラシの作成、HPへの掲載など周知に努めているが、実績はない状況である。	順調	HPにて企業版ふるさと納税のページを作成し、周知を行った。株式会社セコマとホクレン農業協同組合連合会の2企業から寄附を受領している。	企業版ふるさと納税の活用促進をより図るため、本町が実施する地方創生プロジェクトでの発信及び支援企業の募集を図っていく。
<b>就業奨学生支援事業</b> (再掲) (担当：商工観光課)  <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">定住促進</div>											
再掲項目につき記載を省略します。											

### 3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

#### <基本的方向>

(1) 若い世代の経済的安定と様々な支援を図り、結婚の希望をかなえる

#### <具体的な施策>

施策 (事業内容)	重要業績評価 指標 (K P I)	R7年度 目標値	R3年度 実績	R4年9月末 現在の実績	R4年度 実績	目標達成に向 けた取組状況	中間評価		期末評価		今後の展開・改善点
							進捗	進捗状況説明	評価	評価理由	
<b>結婚支援事業</b> 若い世代に出会いの場を設 け、婚姻率を高める。 結婚少子化対策に取り組む ため出会いの場を創出し、 まちぐるみで結婚を応援す る。 清水町結婚新生活支援事業 補助金交付によって、経済 的な理由で結婚に踏み出せ ない人を支援する。 (担当：企画課)	結婚新生活支援 事業補助金交付 件数	5件 (年間件数)	5件	1件	5件 (内継続申 請2件)	ホームページ 及びお知らせ 版で周知を 行っている。 また、婚姻届 けの提出時に チラシを渡し ている。	順調	問い合わせは年 度当初から多数 来ており、今後 2世帯が申請予 定。	順調	新規の申請件数 は昨年度より少 ないが、R4年度 よりリフォーム 費用を対象経費 として拡充し、 利便性を高め た。	制度の周知を図ると ともに、新婚世帯が 活用しやすい補助金 制度に見直し、経済 的不安の軽減に向け て支援を進める。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">安心・安全</div>	婚姻数	40組 (年間婚姻 数)	34組	9組	14組	結婚新生活支 援事業補助金 やおびしん キューピット との連携事業 等により支援 を行ってい る。	遅延	結婚支援の取組 みを行っている ものの直接婚姻 に結び付けるの は困難な状況で ある。	見直 が 必 要	「おびしん キューピット」 の案内をHP・お 知らせ版等で 行っているが、 婚姻に直接結び つけるのは難し い状況であつ た。

(2) 専門的な支援や社会・経済・職場環境の整備により、出産や育児にかかる負担や不安の軽減を図り出産の希望をかなえる

施策 (事業内容)	重要業績評価 指標 (KPI)	R7年度 目標値	R3年度 実績	R4年9月末 現在の実績	R4年度 実績	目標達成に向 けた取組状況	中間評価		期末評価		今後の展開・改善点
							進捗	進捗状況説明	評価	評価理由	
<b>不妊・不育治療支援事業</b> 特定不妊治療費、一般不妊治療費の助成及び不育症治療費を助成することにより、出産を望む夫婦が経済的な心配をせずに治療を受け、出産の希望をかなえられるよう後押しし、出生数の増加につなげる(担当：保健福祉課)	サービス利用件数	15件 (年間利用件数)	26件 (実人数16人)	4件 (実人数4人)	16件 (実人数10人)	事業の認知度を高めるため、広報やホームページで周知をしている。	順調	事業利用者で妊娠につながった事例も複数あり、進捗状況は順調である。	順調	本事業の認知度が医療機関でも高まってきており、医療機関からの働きかけで利用する人も増えている。事業利用者で妊娠につながった例もある。	R4年度より不妊治療が保険診療となったが、依然として自己負担額は高額であることから、事業の継続が必要である。
<b>健やかな出産支援事業</b> 妊婦健診費用の無料化に加え、妊産婦健診及び出産時の交通費を助成することにより、適正な受診を促す。また、ママパパ学級の実施、妊産婦相談、新生児訪問、産後ケア等の実施等により健やかな出産及び育児ができるよう支援する。(担当：保健福祉課)	妊婦健診の必要回数受診率	100% (年間受診率)	100%	100%	100%	妊産婦全員と面談し、事業の周知の他、各々の状況に合わせた支援を実施している。	順調	経済的理由による受診控えはない。また、妊産婦全員に支援介入ができています。	順調	経済的理由による受診控えはない。また、妊産婦全員に支援介入ができています。	R4年度後半より出産・子育て支援給付金事業が新規に加わったことで、より手厚い経済的支援が行われている。経済的な心配をせずに、健診やサービスの利用ができるよう、事業の継続をしていく。
<b>まちの子宝ありがとう事業</b> 町民の出産に感謝し、子育て世帯の経済的負担軽減のために、出産祝い金を支給する(担当：子育て支援課)	出生数	50人 (年間出生数)	50人	20人	支給実績 出生 38人 1歳 29人	制度の周知について取り組んでいる。	順調	窓口係等と連携し、制度の説明手続きを随時行っている。	順調	滞りなく、制度の案内、支給手続きができた。	国による、出産・子育て応援金など、妊娠時から出生後までを支援する新制度などが創設されているが、引き続き町独自の支援策として継続していく。

<p>子育て支援環境づくり事業 父親も参加しやすい子育て講演会や親子のあそびの場を提供する。(担当：子育て支援課)</p> <p style="text-align: center;">安心・安全</p>	講演会、ひろば等への父親の参加数	ひろば事業年間登録数の10%	講演会未実施。ひろば登録60件のうち父親の参加6人(10%)	子育て講演会1回実施。ひろば登録47件のうち父親の参加4人	子育て講演会3回実施。ひろば登録61件のうち父親の参加8人	ひろば事業登録件数47件 父親の参加数4人(9.3%)	順調	子育て講演会3回シリーズのうち1回実施した。ひろばへの父親の参加は、登録件数の8.5%	順調	子育て講演会は年度当初の予定通り3回実施できた。ひろばへの父親の参加は、登録件数の13.1%	子育て講演会は今後も年3回実施する。父親のひろば事業の参加率を年間登録数の10%以上に維持する。
<p>子育て用品貸出し事業 チャイルドシート、ベビーカー、ベビーラックを無償で貸し出し、子育て世帯の負担軽減を図る。(担当：子育て支援課)</p> <p style="text-align: center;">安心・安全</p>	貸付実績	200件(年間貸付実績)	234件	197件	278件	子育て世帯への周知に努めている。	順調	適切な管理をし、順調に事業を遂行している。	順調	適切な管理をし、貸し出しすることができた。	対応年数を過ぎた子育て用品を廃棄し、新たに購入する。(R5年度・年間貸付予定250件)
<p>ファミリーサポート事業 子育て援助を受けたい人と援助を行いたい人を会員登録し、子育ての相互援助を行う (担当：子育て支援課)</p> <p style="text-align: center;">安心・安全</p>	依頼申し込みに対する提供率	100%を維持	希望者に100%の提供	150件の申し込みのうち、1件未実施	255件の申し込みのうち、1件未実施	希望者に100%の提供ができている	順調	提供率99.3%(1件未実施)おおむね順調に運営している。	順調	提供率99.6%(1件未実施)おおむね順調に運営している。	提供会員の高齢化に伴い、100%の受け入れが難しくなっている。提供会員数の増に努める。
	提供会員数	35人	34人	37人	39人	団体への勧誘や研修会の実施をしている。	順調	37人	順調	提供会員5名増	団体への勧誘や研修会の実施を継続する。
<p>子育て世帯保育料等支援事業 多子世帯において、第2子以降の保育料、保育所通所タクシー料を無料として、多子世帯の育児の負担を軽減する。 (担当：子育て支援課)</p> <p style="text-align: center;">定住促進</p>	保育所待機児童ゼロを継続	待機児童ゼロ	待機児童ゼロ 町独自無料化保育料36人(全児童数191人)	町独自無料化保育料36人(全児童数192人) タクシー利用20人(無料17人)	町独自無料化保育料31人(全児童数196人) タクシー利用20人(無料17人)	第2子以降の保育料無料など保護者の経済的負担の軽減を行っている。	順調	待機児童ゼロを維持しているが、未満児の利用割合が増えているため、今後の利用申し込みにも対応できるよう調整が必要	順調	未満児については、保護者の勤務場所等も考慮し、無理の無いように、しみず保育所、御影保育所の利用調整はあったが、待機児童を発生しないように調整できた。	依然として、清水地区、御影地区ともに未満児の利用割合が増える傾向にある。清水地区については、清水幼稚園と統合し、しみず認定こども園となったため、人員等の配置により対応できるように調整する。



<b>子育て支援アプリ情報配信サービス事業</b> 出産及び子育てにおける情報を多くの子育て世帯に向けて発信する。 (担当：保健福祉課) <div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">安心・安全</div>	アプリ登録率	80%以上 (母子手帳交付者数に対しての年間新規登録件数割合)	-	26件 (母子手帳交付数の100%)	35件 (母子手帳交付数の83.3%)	母子手帳交付時及び新生児訪問時、対象者全員にアプリの登録を呼びかけている。	順調	9月末時点での母子手帳交付数は26件であり、新規登録件数と同数となっていることから、登録状況は順調である。	順調	R4年度母子手帳交付数は42件であり、その80%以上の件数が新規登録されており、目標達成できている。	町の子育て支援情報をより多くの対象者にタイムリーに伝えることができるよう、アプリのメリットを丁寧に伝えることで、登録者を増やしていく。
---	--------	------------------------------------	---	-----------------------	------------------------	---------------------------------------	----	---	----	--	---

(3) 地域資源を生かした特色のある教育や子育て環境を整備し、子育て世帯から選ばれるまちを目指し、若い世代の定住・移住を図る

<具体的な施策>

施策 (事業内容)	重要業績評価 指標 (KPI)	R7年度 目標値	R3年度 実績	R4年9月末 現在の実績	R4年度 実績	目標達成に向けた取組状況	中間評価		期末評価		今後の展開・改善点
							進捗	進捗状況説明	評価	評価理由	
<b>地域の特色を生かした教育推進事業</b> 幼児期から英語に触れ、小学校で実施する英語活動の準備をする。また、将来、日常のコミュニケーションができるよう、小学校低学年からの英語活動（小学1年～4年までを推進する。臨時教諭を採用し、小学校1年生及び2年生の学級を、20人程度の少人数の学級編成をして、授業から学校生活全般にわたってきめ細やかな指導を行い、基礎学力の定着を図る。幼稚園、保育所、小学校の関係者により組織された「清水町幼保・小連携協議会」により、幼保・小の連携を行い、幼児教育と小学校教育との適切な接続を図る。 (担当：学校教育課) <div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">安心・安全</div>	保育所、幼稚園の英語活動  (子育て支援課)	6回 (年間活動回数)	5回 (2月中止)	5月7月9月 月1回×3施設 9回	5月7月9月 11月1月2月 月1回 3施設	各施設の年間実施計画に基づき、AETを派遣している。	順調	中止等なく順調に進んでいる	順調	AETを派遣するなど、学校教育課とも連携し、幼児期から英語に触れる機会を提供できた。	引き続き、こども達に英語に触れる機会を提供する
	小学校の英語活動	1年 10h 2年 12h 3・4年 35h (年間活動時間)	1年 10h 1年 12h 3・4年 35h	1年 9h 2年 12h 3年 17h 4年 18h	1年 10h 1年 12h 3・4年 35h	教育課程計画に組み込み、「総合的な学習」等の授業として実施している。	順調	年度当初に作成した計画のとおり実施している。	順調	当初の計画どおりに実施できている。	今後も継続して実施する。
	清水小低学年の20人程度の少人数学級を維持	1人 (年間教員雇用数)	1人	0人 (雇用実績なし)	0人	普通学級の児童が50名(1クラス25名)以上の場合、3クラスとし、教員を採用。	順調	普通学級の在籍者は、1年生、2年生ともに41名で2クラスとなっており、町独自少人数学級は実施していない。	順調	該当する学年がないため実施していない。	3年生以上の中高学年においても1クラス20人程度の少人数学級とすることで学力の定着と落ち着いた学級経営を図りたい。
	幼保・小の交流回数	21回 (年間交流回数)	6回	3回	4回	清水、御影の2ブロックに分け、きめ細やかな連携のもとで実施。	遅延	コロナ禍により実施時期がずれた事業があるが、今後計画どおり実施する予定である。	見直しが必要	コロナ禍による事業実施の調整が難しかった。交流の在り方についての検討を行う。	事業の回数を清水・御影小学校区ごとに毎年4回(年長児交流、1年生及び6年生との交流)とした。

<b>子育て支援制度PR事業</b> 町外にも積極的にPRするために、子育てリーフレットの作成やホームページの充実に取り組む。 (担当：子育て支援課)  <div style="text-align: center;">安心・安全</div>	リーフレット設置箇所	30箇所	24箇所	19箇所	20箇所	作成済み(R2)配布、設置を継続。HPは毎年更新している。	順調	町内飲食店等及び東京、札幌、トマムに設置(200部)	廃止	作成分の設置、配布を終えた。	商工観光課と連携し、町のPR事業に移行する。
	リーフレット設置部数	1,000部(5年間累計)	145部	300部	R4実績300部 累計445部			移住相談会で配布(100)	廃止	作成分の設置、配布を終えた。	商工観光課と連携し、町のPR事業に移行する。
<b>子育て発達支援事業</b> 支援を必要とする子どもとその保護者に寄り添った支援を行う。また、相談窓口の充実と切れ目のない一貫した支援を行うための関係機関の連携の強化に取り組む。 (担当：子育て支援課)  <div style="text-align: center;">安心・安全</div>	バースデーブックの活用率(福祉サービスを利用している児童及び療育手帳又は身体障害者手帳を交付されている児童)	50%(年間活用率)	福祉サービス利用児童の活用64.7%	福祉サービス利用児童の活用43.5%	福祉サービス利用児童の活用57.5%	児童発達支援、放課後等デイサービス利用者への活用を促している。年度末に活用率を調査する。	順調	福祉サービス利用児童の活用43.5%(きずな園在籍39名中17名)	順調	福祉サービス利用児童の活用57.5%(きずな園在籍40名中23名)	バースデーブックとしての活用率の維持と、サポートファイルとしての活用率増にむけた取り組みを継続する。
			妊娠期の活用100%	妊娠期、新生児期のセルフサポートプランのとり込み100%	妊娠期、新生児期のセルフサポートプランのとり込み100%			乳幼児健診受診時の活用も伸びている。		乳幼児健診受診時に活用を促し、継続した活用につながった。	
<b>他地域との交流事業</b> ICTを活用した交流事業(深谷市・台湾)の推進を図る (担当：学校教育課)  <div style="text-align: center;">安心・安全</div>	年間交流回数(台湾・深谷市)	8回(年間交流回数)	4回	3回	6回	清水、御影の各小中学校にて実施。	順調	当初の計画したとおりに実施できている。	順調	相手側との日程調整が難しかったが予定したとおりに実施できている。	今後もICTの機能を活用し、時勢にあった交流としたい。


#### 4 安心して生活しやすいまちづくりとともに、広域連携を推進する

##### <基本的方向>

(1) 健康で活動的な町民を増やし、コミュニケーションを高め、町民同士の連携と支援によるまちづくりの活動を活発にする

##### <具体的な施策>

施策 (事業内容)	重要業績評価 指標 (K P I)	R7年度 目標値	R3年度 実績	R4年9月末 現在の実績	R4年度 実績	目標達成に向 けた取組状況	中間評価		期末評価		今後の展開・改善点
							進捗	進捗状況説明	評価	評価理由	
<b>生涯学習ボランティア事業</b> 仕事や趣味で専門的な知識や技能を有する町民を学校教育や生涯教育を支援する講師等を派遣し、地域のつながりの中で学びあい、教えあう機会を創設する。 (担当：社会教育課)  安心・安全	派遣延べ人数	320人 (年間派遣人数)	394人	36人(清水中)	373人	ボランティアの登録や派遣を町広報や学校に周知し事業を推進している。	順調	小中4校への書写ボランティアを派遣している	順調	小中4校への書写ボランティア、伝統文化体験授業への派遣など行い、学校を核とした町民の繋がり合う機会を提供することができた。	幅広いニーズに応えられるようボランティア整備を引き続き行っていく。
<b>軽スポーツ促進事業</b> 気軽なスポーツ活動を推進し、スポーツによる仲間づくりを進め、心をつなげて健康を保つ。(担当：社会教育課)  安心・安全	参加者延べ人数	60人 (年間参加者)	10人	0人	27人	スポーツ推進委員の指導・協力のもと、チャレンジ・ザ・ゲーム講習会を開催する。	順調	11月～3月にチャレンジザゲームを3回実施予定	見直しが必要	4種類の軽スポーツをスポーツ推進委員の指導により行った。新たなメニューの検討と活動定着の取り組みが必要。	運動不足解消や町民が交流できる機会として有効な手段と考え、新たな種目を検討しながら、多くの町民が参加できるようにしていく。
<b>町民提案型協働モデル事業</b> 町民提案による住民協働で公共課題を解決する取組みを支援し、人材育成事業と連動して町民によるまちづくり事業を推進する。(担当：企画課)  安心・安全	事業提案件数	5件 (年間提案件数)	3件	7件	7件	本事業の募集について、ホームページや広報紙面に掲載し周知している。	順調	新規事業が4件、開町120年に係る事業として3件申請があった。7件のうち9月末で3件の事業が実施済み。	順調	申請のあった7事業に対し、支援することで、協働のまちづくりにつながることができた。	今後も町民のアイデアを具現化する支援として活用してもらう。R5年度からは新しくまちづくりや郷土醸成にかかわる研修活動を対象に加え、町民によるまちづくりを推進する。

<b>第九文化継承事業</b> 合唱ワークショップを開催し、地域で培われてきた第九文化を次世代に継承するとともに、文化芸術活動の輪を広げる。 (担当：社会教育課) 	参加者延べ人数	610人 (年間参加者)	36人	603人(学校合唱376人(清中147×2、御中82×1)第九227人)	1,274人	学校合唱WS・第九合唱WSの実施に取り組んでいる。	順調	学校合唱WSを3回開催、第九演奏会合唱練習を7回開催した	順調	学校合唱WSへのソリスト派遣や第九演奏会、しみず吹奏楽団演奏会を実施により、第九文化の継承と音楽活動の輪を広げることができた。	第九文化を次世代に継承してくとともに、音楽芸術を創出する事業を実施していく。
<b>郷土文化振興事業</b> 郷土の文化と歴史を学ぶ機会として郷土文化講座を開催し、郷土愛を受け継ぐ学びを推進する。 (担当：社会教育課) 	参加者延べ人数	80人(年間参加者)	247人(年間参加者)	0人	22人	郷土文化講座の開設に取り組んでいる。	順調	11月6日に郷土文化講座を開催予定。	見直が必要	11月6日に作家守屋淳による渋沢栄一の論語と算盤についての講演会を開催により郷土を学ぶ機会を提供できた。渋沢以外の郷土史の学びのメニューが必要。	引き続き、郷土の歴史を学ぶ機会をつくり、多くの町民の参加を促す。
<b>まちづくりへの町民参加機会創出事業</b> まちづくりを自分ごととして捉えられる多様な対話の実現を図る。(担当：企画課) 	無作為抽出による住民参加応募率	4.0% (年間応募率)	実績なし	0.6%(3人応募/459募集通知新体育館建設町民検討会議)	0.6%(3人応募/459募集通知新体育館建設町民検討会議)	新たな住民協議会の開催のほか、10月に開催するまちづくり研修会(職員向け)に総合計画審議会委員、住民協議会委員にも案内する。	順調	第6期総合計画策定時に、無作為抽出で委嘱した住民協議会委員のうち11名を引き続き住民協議会委員として委嘱。6月に会議を開催した。	順調	応募率については目標値に至らなかったが、参加した町民から多くの意見を聴取することができた。	まちづくりに参加・関心を持つ人を増やしていくことが重要である。住民協議会やまちづくり懇談会などを通して、今後も多様な対話の実現を図る。
<b>アイスホッケーのまちづくり事業</b> アイスホッケー教室などの競技力向上に向けた支援により、スポーツ交流を進める。(担当：社会教育課) 	アイスアリーナ利用者人数	31,000人 (年間利用者人数)	26,528人	10,083人	26,521人	指定管理事業において、中学・高校のアイスホッケー大会やジュニアアイスホッケー教室を開催する。	順調	地区小学生交流会や高校サマー大会開催のほか、大学の合宿利用に提供した。	順調	小中高校生の各種大会の実施のほか、一般の大会や大学の合宿に利用された。また幼年のアイスホッケー教室が実施されアイスホッケーによる交流が推進された。	適切に施設を維持・管理・運営支援することにより、施設を拠点としたアイスホッケーによる交流が活発となるよう進めていく。

(2) 将来、町民が安心して暮らせるよう、医療・福祉などの生活機能を確保する

<具体的な施策>

施策 (事業内容)	重要業績評価 指標 (KPI)	R7年度 目標値	R3年度 実績	R4年9月末 現在の実績	R4年度 実績	目標達成に向け た取組状況	中間評価		期末評価		今後の展開・改善点
							進捗	進捗状況説明	評価	評価理由	
清水町奨学金貸付事業 (再掲) (担当：学校教育課) <span style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 2px;">定住促進</span>											
再掲項目につき記載を省略します。											
交通弱者対策事業 コミュニティバスの運用充実などを図り、交通弱者の満足度を向上させる。 (担当：企画課) <span style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 2px;">安心・安全</span>	コミュニティバス年間利用者	1,500人 (年間利用者)	2,214人	876人	1,786人	利用者の状況を把握し、毎年路線の見直しの検討を行っている。	順調	利用者6月に老朽化した停留所を更新し、11月以降には車両を更新する予定。買い物銀行バスの普及により利用者は減少傾向である。	見直しが必要	老朽化した停留所、運行車両の更新等を行い、利用者の利便性の向上に努めたが、利用者は減少傾向にある。	利用者の声を聴き、運行内容の改善、新たな交通手段の検討も含め、利用者の満足度向上を図る必要がある。
	買い物銀行バス年間利用者	4,500人 (年間利用者)	4,338人 (登録者273人)	2,338人 (登録者282人)	4,625人 (登録者285人)	ホームページ、お知らせ版で周知を行っている。	順調	同バスの認知度が浸透し、登録者数も増加傾向にある。お盆限定墓参り運行には延べ19名利用があった。	順調	広報活動等により利用促進を図り、利用者が増加傾向となった。更なる利便性向上に向け、ニーズ調査を行った。	令和4年度に行った、利用者へのニーズ調査の結果に伴い、送迎サービスにあわせ、試験的に送迎先での買い物等の補助を行うサービスも追加し、利便性向上を図っていく。
就業奨学生支援事業 (再掲) (担当：商工観光課) <span style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 2px;">定住促進</span>											
再掲項目につき記載を省略します。											

(3) 既存の施設などの資産を有効活用し、将来を見据えた安心・安全な公共サービスを提供する

<具体的な施策>

施策 (事業内容)	重要業績評価 指標 (K P I)	R7年度 目標値	R3年度 実績	R4年9月末 現在の実績	R4年度 実績	目標達成に向 けた取組状況	中間評価		期末評価		今後の展開・改善点
							進捗	進捗状況説明	評価	評価理由	
観光情報発信拠点強化事業 (再掲) (担当：商工観光課)  定住促進							再掲項目につき記載を省略します。				
新規開店者・空き店舗活用 開店者支援事業 (再掲) (担当：商工観光課)										R4より「清水町起業 等スタートアップ支 援事業補助金」創設	
起業・雇用促進補助金交付 事業 (再掲) (担当：商工観光課)										R4より「清水町起業 等スタートアップ支 援事業補助金」創設	
起業等スタートアップ支援 事業補助金交付事業 事業者等新規起業に伴う経 費及び雇用助成他、既存店 舗全面改修に伴う経費を支 援 (担当：商工観光課)  定住促進							再掲項目につき記載を省略します。				

(4) 広域連携を進め、効率的で有効な公共サービスを提供する

<具体的な施策>

施策 (事業内容)	重要業績評価 指標 (K P I)	R7年度 目標値	R3年度 実績	R4年9月末 現在の実績	R4年度 実績	目標達成に向けた取組状況	中間評価		期末評価		今後の展開・改善点
							進捗	進捗状況説明	評価	評価理由	
<b>十勝定住自立圏の推進</b> 結びつきやネットワークの強化に向け、まちづくりと連携したバス利用の促進に取り組む。 圏域マネジメント能力の強化に向け、職員の合同研修などを継続するほか、産学官が連携し、ビッグデータ等を活用した十勝圏の現状分析を進める。(担当：企画課)	十勝管内の観光入込客	1,046万人 (年間入込客数) (第3期共生ビジョンR6年度目標値)	R2年度観光入込客数：707万人	R3年度観光入込客数：711万人	R3年度観光入込客数：711万人	観光情報の発信、地域の魅力発信、プロモーション活動の実施を行っている。	順調	観光情報の発信、プロモーション活動、帯広空港利用促進事業など、十勝管内が連携して事業を進めている。	外的要因のため停滞中	コロナ禍の影響により、観光入込客数が減少しているが、十勝管内が連携して事業を進めている。	観光情報の発信、プロモーション活動、帯広空港利用促進事業など、十勝管内が連携して事業を進める。
	<div style="text-align: center; background-color: #0056b3; color: white; padding: 2px;">定住促進</div>	十勝管内バス乗客数	464万人 (年間乗客数) (第3期共生ビジョンR6年度目標値)	R2年度バス乗客数：326万人	R3年度バス乗客数：328万人	R3年度バス乗客数：328万人	バス交通の維持、確保に関する計画の策定・協議、啓発活動の実施、バス利用促進施策の協議を行っている。	順調	バス交通の維持、確保に関する計画の策定・協議、バスの利用促進・情報発信を十勝管内が連携して進めている。	外的要因のため停滞中	コロナ禍の影響により利用者が大幅に減少している。バス利用促進施策の協議を十勝管内で連携して進めている。
<b>新たな広域連携の推進</b> 他の市町村や大学などとの連携に取り組み、町の産業、観光、教育などの振興について、新たな視点とノウハウを取り入れた施策の取組みを進める。(担当：企画課)	各機関との連携事業の推進	3事業 (5年間累計)	2事業	2事業(台東・墨田区連携事業、交通による交流人口拡大推進事業)	R4実績 2事業(台東・墨田区連携事業、交通による交流人口拡大推進事業)  累計 4事業	他市町村との情報共有を図り、新たな広域連携の検討を行っている。	順調	2事業とも、十勝全体で取り組んでおり、順調に進んでいる。	順調	コロナ禍の影響で事業が遅れが生じた事業もあったが、計画どおり実施された。	台東・墨田区連携事業は令和4年度で事業終了となるが、今後は十勝西ブロックにおいて、継続的な交流につなげていく。交通による交流人口拡大推進事業は十勝全体で交流人口拡大に取り組んでいく。